

## 第 14 回教育研究大会のご案内

1. 目的 高等学校教育における生徒の学習活動のあり方について実践的研究を推進する。
2. テーマ 双方向性, 探究力養成を意識した授業
3. 日時 2013 年 11 月 22 日(金) 9:30～16:45
4. 会場 京都市立堀川高等学校  
〒604-8254 京都市中京区東堀川通錦小路上る四坊堀川町 622-2  
URL <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/horikawa/>
5. 参加対象 学校関係者, 教育関係者
6. 参加費 一人 2,000 円(資料代を含む)  
  
\*京都市立学校関係者については参加費は不要です。  
  
\*SSH 指定校につきましては, 本大会は SSH 事業ではありませんので, 参加費が必要となります。また, 各校の SSH 経費からの交通費支出は認められないという連絡を JST から受けております。あしからずご了承ください。
7. プログラム

8:45	9:30	10:20	10:40	11:30	11:45	12:35
午前	受付	開会式 全体会		研究授業Ⅰ		研究授業Ⅱ
				公開授業Ⅰ		公開授業Ⅱ

14:00	15:15	15:30	16:45
午後	分科会Ⅰ		分科会Ⅱ

## 8. 内容

### 研究授業Ⅰ 10:40～11:30

授業名	授業内容	
コミュニケーション 英語Ⅰ	タイトル	授業を「考える機会」に
	概要	本文のテーマ(インターネットの利点と弊害)についての様々な見解を理解し、自らの考えを発展させ、英語で表現します。
	ねらい	テーマについて根拠をもって意見を述べると共に、生徒間の交流の中でさらに考えを深めることができる授業を目指します。
国語総合B	タイトル	和歌
	概要	万葉・古今・新古今の「典型」を資料等を用いながら学習しつつ、それぞれの集の特質を比較するという観点を持って解釈を行います。
	ねらい	生徒たちの日常の言語活動と距離を感じさせる和歌世界。解釈に及び腰になりがちですが、一定の「型」を方向性として与えることで手がつきやすくします。生徒間で解釈を深める契機にしたいと考えます。
世界史B	タイトル	森と海の中世ヨーロッパ
	概要	中世ヨーロッパ世界の展開を、自然環境と人々との関わりや、中世の人々の活動・心性に注目して理解し、考察します。
	ねらい	自分が中世社会に生きたらどうするだろう？現代の時代や地域と、どこが違い、どこが同じなのか？遠い時代の世界のことも、具体的かつ身近な視点で考える力の伸長を目指します。
数学研究α	タイトル	関数の極限
	概要	極限の概念を理解します。
	ねらい	極限に関して、主体的な生徒の活動を促しながら、能動的な学習活動を行うことがねらいです。

### 研究授業Ⅱ 11:45～12:35

授業名	授業内容	
地学基礎	タイトル	大気の運動とその原因
	概要	常識的な経験に基づく推論では説明ができない回転系の力学を、既習の知識をよりどころにして議論・推論させながら、生徒たち自身に体系化させます。
	ねらい	日常のローカルな気象現象とグローバルな大循環との関連や比較をすることで、地球科学の遠近法を身につけさせることがねらいです。
化学研究Ⅰ	タイトル	気体
	概要	無機、有機分野を終えてから理論分野を進めています。 気体に関する各法則を学び終えたところで、それらを活用させていきます。
	ねらい	「気体」に関して、日常生活と関連のある問いを提供し、生徒に考えさせることをねらいとします。
英語Ⅱ	タイトル	生徒の「言語活動の場」としての授業を目指して
	概要	「現代社会の抱える問題」に関する英文を読み、本文の内容理解をふまえ、題材に関する自らの考えを英語で表現します。
	ねらい	学んだことから自らの考えを深め、それを英語で表現し、ペアやグループで交流する「言語活動の場」として授業を用いることで、生徒一人一人の学びの深まりを目指します。

科目	分科会テーマ	分科会概要
国語	国語の授業における「トライアングル」の模索 ～トライ・トライアングル～	分科会Ⅰ：研究授業の研究協議
		分科会Ⅱ：分科会テーマに基づく発表と意見交換
		授業者からの一方向ではなく、生徒からの発信を引き出す双方向の授業——これを考えているうちに、私たちはふと考えました。「教授者と生徒の双方向だけでなく、生徒たち同士も、お互いの発信で啓発しあっているのではないか。その意味は想像以上に大きいのではないか。」授業者から生徒、生徒から教授者、そして生徒から生徒へ。国語の授業における三角形を考えてみませんか。
地歴 公民	事象のつながり、 知識のつながり	分科会Ⅰ：研究授業の研究協議
		分科会Ⅱ：分科会テーマに基づく発表と意見交換
		地歴公民の授業では、講義形式での知識の教授が重要な部分を占めますが、生徒自身が得た知識を別の知識と結びつけて考えることや、生徒の主体的な学習姿勢と自ら考える力を伸ばすことも求められます。生徒の中から知識のつながりの発見が起こる授業について、ご参加の先生方とともに、考えてみたいと思います。
数学	探究する力を育成する授業の研究	分科会Ⅰ：研究授業の研究協議
		分科会Ⅱ：分科会テーマに基づく発表と意見交換
		各学年で研究テーマを設定しており、その実践内容、生徒の様子や声をふまえた評価結果、今後の課題などをご報告します。また、各校で実践されている内容や新課程の取組、課題研究などについてもアンケート結果を参考にしながらご参加いただく先生方と交流したいと思います。
理科	新教育課程展開の試みとしての「双方向性の授業」	分科会Ⅰ：研究授業の研究協議Ⅰ
		・本校理科における新教育課程・3年間の流れ ・2年次のカリキュラム実践、化学研究Ⅰ(3単位)を例に
		分科会Ⅱ：研究授業の研究協議Ⅱ，その他の情報交流
		・2年次のカリキュラム実践、地学基礎(2単位)を例に ・参加者とのカリキュラム・実施状況の交流 ・その他、最近の教育事情についてなど
英語	生徒の4技能を伸ばす 有効な活動を考える	分科会Ⅰ：研究授業の研究協議
		分科会Ⅱ：分科会テーマに基づく発表と意見交換
		本校では昨年度より、新教育課程の理念に基づいた4技能統合型授業のあり方について交流を行ってきました。前半では、本校の授業において4技能のバランスをどのように考慮しているかについて簡単にご紹介し、後半では、グループに分かれて、各校における4技能統合型の授業の実践例や可能性などについて交流します。

	分科会テーマ	分科会概要
本校の歩み	自立する18歳の育成	分科会Ⅱ：平成11年度に、従来からの普通科に加えて人間探究科・自然探究科を設置し、豊かな学校の構築を目指し始めてから14年が経過します。さまざまな経緯を振り返りつつ、現在の堀川高校の現状と今後の展望について報告します。

9. 申込方法 「第14回教育研究大会のご案内」パンフレット(以下「ご案内」)に記載しています。参加をご希望される方は、下記メールまで「ご案内」をご請求ください。

kenkyu2013req\*horikawa.edu.city.kyoto.jp  
(\*を@にかえてください)

なお、第13回以前の教育研究大会に参加いただいた高等学校には、学校あてに「ご案内」をお送りいたします(10月18日発送予定)。メールは以下の書式にて、必要要件をご記入の上お送りください(10月30日締切)。

件名	案内パンフレット請求:(学校・機関名)
本文	郵便番号: 住所: 学校・機関名: 請求者所属: 請求者氏名: 電話番号: E-mail アドレス:

確認後に、「ご案内」をお送りいたします。

「ご案内」の内容:

- ①公開授業・分科会一覧
- ②申込書ダウンロードおよび記入方法
- ③申込書の送信方法
- ④確認・申し込み内容変更方法

10. 問い合わせ 京都市立堀川高等学校 企画研究部  
TEL 075-211-5351 FAX 075-211-8975